

院長就任挨拶

この度、令和3年4月より豊橋市民病院長に就任しました浦野文博です。

私は、昭和60年、名古屋大学を卒業、大垣市民病院にて研修、名古屋大学第二内科を経て、平成8年4月に当院に赴任してまいりました。当院では、故瀬川昂生先生、岡村正造先生のもと、消化器内科、特に肝臓病を中心に診療してまいりました。前加藤院長就任と同時に副院長を拝命し、前加藤院長の指導の下、その職務に従事してまいりました。

現在、新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、この地域でも猛威をふるい、患者数は豊橋市でも1,000名を超えています。市民の皆さまにおかれましては、感染拡大防止のための外出自粛や「3密」を避ける行動など大変不自由な生活を送られていることと存じます。3月には医療関係者にワクチン接種が始まりましたが、この感染症が収束するにはまだ時間がかかると思われまふ。世の中が新しい生活スタイルに移行し、医療を取り巻く情勢がめまぐるしい変化を見せるこの時期に院長就任という重責を託されたことに、身の引き締まる思いがしております。

当院は感染症指定医療機関としてこれからもこの感染症に対して、適切な医療を提供するとともに、当院の本来の役割である地域の基幹病院としての救急医療やがん診療に対しても診療の質を落とすことなく、高度な医療を提供し続けてまいります。さらに、この感染症による患者受療行動の変化に応じて、当院での診療体制も柔軟に見直していく必要があると感じています。当地域で暮らす人々の健康を守るため、地域の医療関係者と良好な協力関係を築くとともに、引き続き、市民の皆様のご支援とご協力を賜りますようよろしく願い申し上げます。

令和3年4月1日 浦野 文博